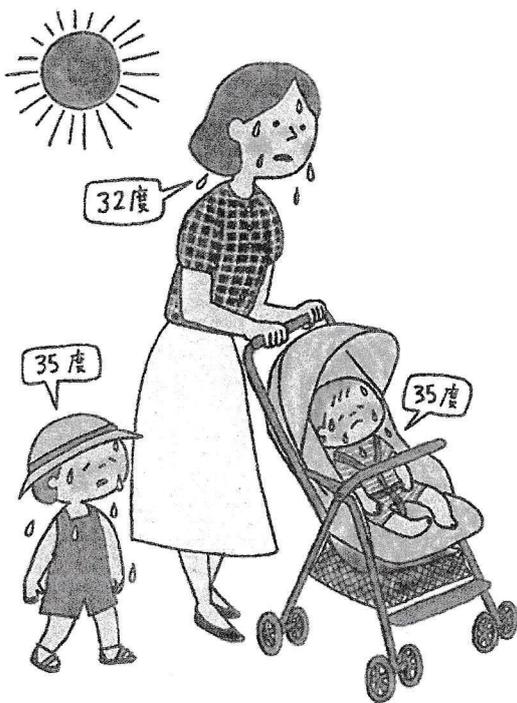




梅雨が明け、本格的な夏がやってきました。園では暑さ指数(WBGT)計を用いて、熱中症になりやすい環境に注意しています。梅雨時期は湿度も加わり、日中に、最大の危険レベルにまで達することも数回ありました。毎日こまめに水分補給をするとともに、お家でもしっかり栄養をとること、そして夜は、ぐっすり眠って体力を回復できるよう、クーラーや扇風機を上手に使ってください。

暑さから子どもを守りましょう！



小さな子どもは、大人よりも暑さの影響を強く受けます。というのは、強い日差しの照り返しで地面に近づくほど気温が高くなるためです。

気象予報などで発表される気温は、地上から150 cmの高さで測っていますが、気温32.3度のとき、50 cmの高さでは35度超、5 cmの高さでは36度超。ベビーカーに乗っている子どもはかなりの暑さにさらされているのです。

日中の外出は……

なるべく
日陰を
選んで歩く

暑さの厳しい
12～14時の
時間帯を避ける

ベビーカーを使うときは ここもチェック！

①日よけで空気がこもらないように

ベビーカーに装着する日よけは、風通しも悪くなりがちです。日よけの中に熱い空気がこもらないように注意しましょう。

②こまめに様子を見て

多くのベビーカーは、シートが進行方向を向いていて、大人から子どもの様子が見えにくくなっています。こまめに顔色やきげんのよしあしをチェックし、汗をふいてあげましょう。

③水分補給をしっかり

赤ちゃんや小さな子どもは汗っかきなうえ、「のどがかわいた」と言えません。油断せず、水分をこまめにとらせましょう。

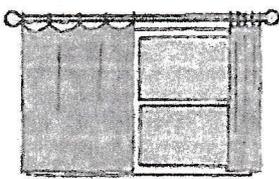
●脱水かな？と思ったら

脱水の症状が表れたときは、水分と同時に塩分も補給するようにしましょう。経口補水液を少しずつ与えるのがベストです。ドラッグストアなどで販売されている経口補水液ですが、自宅でもつくることができます。水500mLに対して、塩1.5gと砂糖20g、レモン汁少々を混ぜてよく溶かすだけで完成です。

※経口補水液は塩分濃度が高いので、普段の水分補給には適していません。

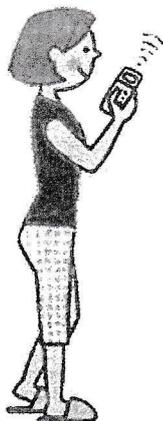
猛暑対策

エアコンを上手に使って涼しく過ごしましょう



まず衣類で調整する

家でエアコンをつけていても暑いと感じたら、エアコンの温度を下げる前に、大人が薄着になりましょう。

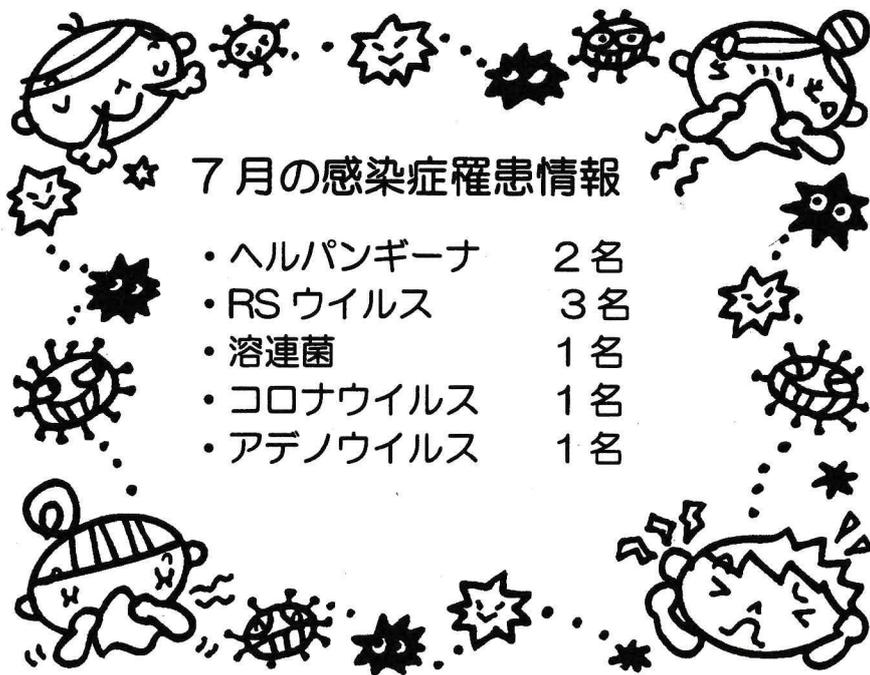


室内の温度差を少なくする

天井と床では、室温が1～2度変わると言われています。大人にはちょうどよく感じても、小さな子どもには寒すぎることも。扇風機などで室内の空気を循環させましょう。

冷風がじかに当たらないようにする

冷たい風に当たり続けると、体が冷えてしまいます。特に睡眠中は、子どもにエアコンや扇風機の風が当たらないよう気をつけて。



7月の感染症罹患情報

- ・ヘルパンギーナ 2名
- ・RS ウイルス 3名
- ・溶連菌 1名
- ・コロナウイルス 1名
- ・アデノウイルス 1名

新型コロナウイルスに関して

5月より感染症の分類が5類へ変更となりました。そのため、登園再開時、陰性証明書の提出は不要となりましたが、インフルエンザウイルスと同様、登園許可書が必要となります。感染者数増加により、医師より記入できないと言われた際は、登園時にその旨を伝えていただくようご協力よろしくお願いします。

保育所における感染症ガイドライン
<https://kodomoenkkyokai.or.jp/wp-content/uploads/2023/05/60342170aa360b5cce6f4ffe341a8a6c.pdf>

8月の保健行事

- ・ 3日 身体測定 0・1・2歳児
- ・ 4日 身体測定 3・4・5歳児

